

平成29年度研究紀要発刊に寄せて

山梨県総合教育センター
所長 小川 巖

教育界は、多くの今日的課題に直面し、さまざまな対応と改革が求められています。これからの子供たちが生きていく世界にあっては、どのように学び、その学びをどのように活用し、どのように協働して探究するのかといった新たな知や価値を創造する能力が求められています。

そして、少子高齢化に伴う人口減少や ICT の進歩、社会や経済のグローバル化の進展など、多様な視点からのニーズによって様々な教育課題が山積する今日、本センターが本県教育の「知の拠点」として果たす役割はますます大きくなっていくと考えます。

本年度の研究は、「未来を担う子どもを育てる学校教育の総合的な支援－生きる力を育む実践的指導の在り方－」をテーマに、「先進プロジェクト研究」、「教育実践研究」を小中高 22 校の研究協力校と 31 名の研究協力員とともに行いました。各設定主題に沿って、授業モデルの開発、活用しやすい教材の作成、検証授業の実施とその授業公開を中心に据え、今日的課題や学校現場のニーズに沿った具体的な成果を提供することを目的に研究を進めて参りました。今年度の研究におけるキーワードは、言語活動、小学校外国語活動、探究、プログラミング教育、ICT の活用、やまなしスタンダード、いじめ、不登校、合理的配慮等で、教育実践課題のわかりやすい事例分析に努めました。

このように、加速する教育改革を背景に現場の先生方のニーズに的確に応えるためにも、本センターは「学校教育を支援する確かな情報発信源」として、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成とともに学習意欲の向上と学習習慣の一層の定着を図り、確かな学力を身に付けた子供の育成を目指して、研修及び研究のさらなる充実と深化を目指して取り組んで参ります。

また、常に新たな課題に向かい続ける教育現場にあって、教員には学び続ける、研究し続ける姿勢が求められます。先生方が、新たな課題に、主体的・協働的に取り組む姿をとおして、子どもたちに学ぶことの楽しさや意義を伝えられるよう、今後も学校教育を支援し、先生方から頼りになるセンターとして、引き続き、進化し続ける所存です。

今年度の研究の締めくくりにあたり、研究成果を「研究紀要」として公刊することとなり、20本の論文を収録しました。本編の他、資料編として学習指導案、教材、ワークシート等も本センターのホームページからダウンロード可能です。各学校の実態に合わせて、工夫を加えながら是非御活用ください。これらの内容が日々の教育実践の参考になりますよう願うとともに、今後も学校のニーズを反映した研究を進めるために御助言をいただければ幸いです。

結びに、調査・研究に御協力いただきました皆様、専門的立場から御指導をいただきました山梨大学の先生方をはじめとする関係機関の皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。